

平成27年度地域医療支援病院業務報告（任意的に求められる取り組み）

取組み事項				①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信	③地域連携を促進するための取り組み	④その他		
No.	医療圏	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	評価を受けた機関名等	情報発信の方法・内容等の概要	ICT（情報通信技術）を用いた病診連携等	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
1	福岡・糸島 (11病院)	糸島医師会病院 (H15.3.13)	一般150	(公財)日本医療機能評価機構による認定3rdG:Ver1.1取得(H28.5)	地域の集配システム等を利用して糸島市内の医療機関や行政機関(糸島市役所、糸島消防本部、糸島保健所)へ向けて研修会の案内や診療、検査等に関する情報を周知している。毎月、病院だよりを発行し、実施した研修会の詳細他、幅広く情報を市内の医療機関へ発信している。	H27年度とびうめネット加入	医師会等で策定した「脳血管障害地域連携バス」、「がん地域連携クリティカルパス」をもとに、他の医療機関とも連携して、均てん化を図っている。	—	—
2		独立行政法人国立病院機構九州医療センター (H16.2.27)	一般650 精神 50 感染症2	(公財)日本医療機能評価機構(平成26年2月19～20日受審、平成26年5月2日認定)	ホームページ、診療年報、広報誌及び地域医療支援病院運営会議、地域連携セミナー、研修会等を開催し、診療内容・医療サービス、診療実績、診療機能分析レポート及び臨床評価指標(国立病院機構総合研究センター作成)を発信している。病院の理念、基本方針をはじめ自院の役割や診療機能等さまざまな内容をホームページにより作成し、定期的又は随時更新している。	情報発信については一元化を図っており、組織的に運用・管理を行っている。広報誌「KMCニュース」は年4回発行しており、自院の取組、ニュース、連携医療機関の紹介及び診療実績を掲載し、幅広く配布している。	【福岡市医師会】大腿骨頸部骨折・脳卒中・心筋梗塞、慢性腎臓病(CKD) 【福岡県医師会】胃がん・大腸がん・乳がん・肝がん・肺がん・前立腺がん、内容は術後のフォローアップ	病院独自での地域連携バスの説明会の実施 大腿骨頸部骨折・脳卒中の地域連携バス実績の連携先への報告会(年1回)	1,082名 ・原看護専門学校、福岡県私設病院協会看護学校、福岡市医師会看護専門学校、福岡女学院看護大学、国際医療福祉大学
3		公立学校共済組合九州中央病院 (H18.4.1)	一般330	(公財)日本医療機能評価機構Ver6(2013年2月1日認定)	病院ホームページで、地域医療支援病院としての取り組み、利用方法等の情報発信、診療実績等を公表している。広報誌では、登録医及び連携病院の紹介、診療実績などの発信を行っている。また、外交専従MSWが地域医療機関を訪問し、診療・医療機器情報などの情報提供を行っている。	ICTを利用した地域医療機関との必要情報を共有することは今後の課題である。	福岡市医師会方式脳卒中バス・大腿骨頸部骨折地域連携バス 福岡県がん地域連携バス:胃がん、大腸がん、肝がん、肺がん、乳がん、前立腺がん	福岡市医師会地域連携バスワークショップに参加し、バス方式のもと、医療の効率化、標準化を検討している。また、MSWが連携医療機関へ出向いてクリティカルパスの普及などの情報交換を行いシームレスな顔の見える連携を図っている。	230名 ・純真学園大学
4		福岡市立こども病院 (H19.9.1)	一般233	(公財)日本医療機能評価機構 病院機能評価(3rdG:Ver.1.1)平成28年6月	「年報」は、開院以来毎年発行し、病院概要や患者統計、経理状況をはじめ、各診療部門、医療技術部門、看護部門の業務内容及び研究・研修内容等を掲載し、医療機関や行政機関等に配布した。 パンフレット「病院のご案内」は、各診療科をはじめ、医療技術部門、看護部門等の紹介及び受診される方への案内等を掲載している。毎年度更新しており、医療機関や行政機関等に配布した。 情報誌「みらい」は、隔月で年6回発行し、院内で配布するとともに、平成23年12月からは地域の診療所にメールでの送信を開始した。また、平成24年からは、開放型登録医の先生方へ郵送している。年間で約1,000部配布している。 平成26年度には、開院と同時に病院のホームページを全面リニューアルし、受診案内や診療科だよりをはじめ、職員募集のタイムリーな情報の発信を行っている。	—	福岡病院と小児SAS検査連携バスを策定・使用	—	1,194名 ・九州医療センター附属福岡看護助産学校、原看護専門学校、西南女学院大学、福岡県立大学、精華女子高等学校、自衛隊福岡病院看護学院、福岡市医師会看護専門学校
5		国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 (H21.4.1)	一般468	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目3rdG:Ver1.0取得(H26.9.24～25)	当院ホームページにおいて、セミナー・研修会開催情報を発信。 年4回広報誌(はまかせ)を発行。 登録医のもとに勤務されている看護師さんに研修会の案内を発送。	放射線検査の予約システム、周産期ネットワークの導入	福岡市医師会及び連携を取っている医療機関とともに、「大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパス」、「脳卒中地域連携クリティカルパス」を運用。 福岡県がん診療連携バス(胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん・乳がん)	当院外来フロアに関連医療機関を掲示し、患者・家族への周知を図っている。	287名 ・福岡市医師会看護専門学校、日本赤十字九州国際看護大学
6		福岡県済生会福岡総合病院 (H22.4.1)	一般380	H26.3.20付けで、ISO9001の認証取得 ビューロピタス(審査会社)	当院のホームページにおいて、院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知するほか、無料・低額診療、小呂島離島健診を行っていることや、がん診療連携拠点病院であること、及び患者向け情報誌「ふくふくネット」を掲載している。	登録医に対しては、CT、MRI等の検査予約、いくつかの診療科の診療予約をホームページ上で行っている。	脳卒中連携バス、大腿骨頸部骨折バスの運用の他、がん診療連携拠点病院である当院及び都道府県がん診療拠点病院である九州病院や九州がんセンターを基幹病院とした5大がんバスの運用をしている。	脳卒中連携バス、大腿骨頸部骨折バスについては、福岡市医師会が中心となり、年3回のワークショップを行い情報交換の場となっている。がんバスについては、九州がんセンターが中心になり連絡協議会の地域連携部会に県内の拠点病院が集まり普及させるための取り組みを協議。	1,790名 ・福岡医師会看護専門学校、麻生看護大学、高尾専門学校、純真学園大学
7		福岡市民病院 (H23.4.1)	一般200 感染症4	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目3rdG:Ver1.0一般病院2審査体制区分3(平成27年1月14日、15日:受審平成27年4月3日認定)	本病院のホームページにおいて地域の医療機関、医療従事者向けに、患者紹介の方法、診断機器の紹介、院内研修会・勉強会の案内、開放型病床の案内、地域連携バスの案内などを周知している。	—	福岡市医師会及び関係医療機関とともに、「脳血管地域連携バス」、「大腿骨頸部骨折バス」、「がん地域連携バス」及び「慢性腎臓病地域連携バス」を策定し、急性期病院である本病院及び市内急性期病院を基幹病院として回復期リハビリテーション病院や診療所、療養施設とも連携して、患者情報を共有することにより、専門医療連携を行い、地域全体でより適切な治療を提供している。	年1回、連携先の回復期リハビリテーション病院との間で、医療連携バス連絡会を当院主催で開催し、当該クリティカルパスの概要を説明するとともに、症例検討を通してバスの評価と見直しを行うなど、関係医療機関に周知している。	・1,302名 ・福岡市医師会看護専門学校、福岡女学院看護大学、純真学園大学
8		福岡赤十字病院 (H23.4.1)	一般509 感染症2	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目3rdG:Ver1.1取得(平成28年2月4日)	当院のホームページにて研修会の開催や病診連携について案内すると共に、それらの内容を掲載した広報誌を作成、近隣の病院へ送付し周知している。	とびうめネットに参加し、かかりつけ医と救急医療の連携に努めている	福岡市医師会「脳血管障害・大腿骨頸部骨折地域連携バス」、「慢性腎臓病(CKD)」、「がん地域連携クリティカルパス」	当院において連携バスを積極的に活用することで普及させている。	404名 ・日本赤十字九州国際看護大学、学校法人麻生塾専門学校麻生看護大学、福岡看護協会
9		社会医療法人財団白十字会 白十字病院 (H24.7.27)	一般411 療養55	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目3rdG:Ver1.0取得(H26.1.6) (公社)日本診療放射線技師会による医療被ばく低減施設認定(H23.3.1)更新(H28.7.1)	毎月月初めに登録医を中心とした医療機関へ外来予定表等を郵送している。病院広報誌「白十字病院だより」を年3回発行、「白十字病院登録医会(そったく会)」会報を年5回発行、年報を年1回発行、登録医を中心に近隣医療機関へ郵送している。「白十字病院だより」、「白十字病院登録医会(そったく会)」会報はホームページでも閲覧が可能。定期郵送物の他にも重要なお知らせがあれば、その都度FAX又は郵送で情報発信を行っている。顔の見える連携をモットーに医療機関を訪問、情報発信、意見収集を行っている。地域住民の方より依頼があれば出前講座を開催し、医療に関する情報を発信している。	当院が運営する地域医療連携ネットワーク「クロスネット」を利用して連携している。登録医療機関と当院、登録医療機関と患者、それぞれで利用契約を行うことが情報公開の前提である。公開している情報は「患者基本情報」、「検査結果」、「カルテ記事・オーダー情報」、「画像情報」、「当院のお知らせ(医師不在予定、イベント情報)」等となっている。また、クロスネットを利用している登録医療機関からCT、MRIの検査予約が可能である。画像データについては、クロスネット以外にCD-Rでの提供もしている。また、診療情報提供書や返書については、紙での運用(FAX、郵送)としている。	地域連携クリティカルパスの策定は行っていないが、「脳血管障害地域連携バス」、「大腿骨頸部骨折地域連携バス」は後方支援の立場として中核病院との連携を積極的にとっている。	福岡市医師会、計画管理病院が主催する地域医療連携ワークショップや連絡会などの会合に出席し、情報交換に努めている。	139名 ・福岡市医師会看護専門学校、福岡国際医療福祉学院、精華女子高等学校、麻生看護大学
10		福岡記念病院 (H26.12.5)	一般239	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目一般病院2<Ver.1.0>、病院機能評価付加機能救急医療機能<Ver.2.0>取得(平成25年10月4日)	○ホームページ 当院のホームページにおいては、患者様向けのご案内として、診療・検査のご案内をはじめ代表的な高度医療の紹介、部門別特徴の内容として病診連携、医療連携のつどい、看護学生インターンシップのご案内等を掲載し、病院情報の発信を推進している。 ○広報誌 「face to face」年4回発行(3,000部/回)。当院の新着情報、新任医師の紹介をはじめ、連携医のご紹介や診療情報等を掲載し、患者様への情報提供を推進している。 毎回、福岡市及び糸島市の医療機関や施設へ約800部を発送。 ○年報 年1回発行(300部/年)。毎年8月に実施する「医療連携のつどい」の中で、連携医療機関施設に配布、病院概要、統計資料、部門別活動報告、院内委員会活動報告等を掲載し、地域連携の推進に活用している。	—	福岡市医師会との連携のもとに地域連携クリティカルパス(大腿骨頸部骨折・脳卒中)を策定し、本病院を計画管理病院として地域連携診療計画書「地域連携バス」を作成し、地域連携機関との間で診療情報を共有・活用することで質の高い医療を提供する。	入院後早期にカルテにより情報収集を行い地域連携バス対象者を把握。バス対象者であることを主治医・病棟看護師・リハビリスタッフへ報告。近隣の回復期病院に対し連携バス協力医療機関への参加を促進している。	2,156名 ・福岡医療専門学校
11		福岡和白病院 (H26.12.5)	一般367	平成16年より5年ごとに(財)日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審している。最新は平成26年3月に一般病院2 3rdG:Ver.1.0を受審し認定を受けている。また、福岡市東区医師会東区病院部会の相互機能評価を受けている。	院内、院外(地域の公民館等)に地域住民へ健康教室や健康体操のポスターを掲示するほか、登録医療機関や院外の関係者に向けて、診療予定や研修開催に関する情報を月に1度発送、合同カンファレンスなどの勉強会を積極的に開催している。また、本病院ホームページにおいても健康教室、健康体操や特別講演、地域医療研修会などの予定を掲載し、個別訪問して案内している。また、新たな設備や治療法導入の際は、関係する医師及び技師による医療機関への訪問活動を行っている。	とびうめネット(福岡県診療情報ネットワーク)に参加し、診療所・近隣病院と必要情報を共有し地域医療に努めている。	福岡市医師会方式脳血管障害地域連携バス 福岡市医師会方式大腿骨頸部骨折地域連携バス	年に3回(3月、7月、11月)開催される地域連携ワークショップの参加、医師・看護師・MSWと地域連携バスの実績確認(月1回)、医師による地域連携バス対象者の迅速な選定と対象者へのバスの説明、医療連携室によるデータ管理	345名 ・福岡看護専門学校

取 組 み 事 項				①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信	③地域連携を促進するための取り組み	④その他		
No.	医療圏	地域医療支援病院名(承認年月日)	病床数(床)	評価を受けた機関名等	情報発信の方法・内容等の概要	I C T (情報通信技術)を用いた病診連携等	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
12	粕屋(1病院)	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター(H19.4.19)	一般541 結核38 感染症12	—	1)冊子などの配布(粕屋医療圏での情報発信) ①在宅医療ネットワーク(後にとびうめネットワークとして県下に拡張)の登録患者のアンケート結果を冊子として、粕屋医療圏及びとびうめネットワークの宣伝資料として幅広く配布している。 ②院内情報誌「ちどり」の定期発行し、近隣の医療機関等に配布することで病院情報を発信している。 2)講演(粕屋医療圏の地域医療の試みの発信(情報収集も兼ねた試み)) 入院から退院後の在宅までシームレスな医療介護の継続するために電子カルテの改造を行い多職種(医療、介護、行政)で双方向に情報を伝達共有できるシステム(結ネットいきいき)を開発中(一部完成)で、多方面で紹介している。 講演場所:古賀市の健康福祉まつりで高齢者に向けて「いきいき老後の家庭生活」、粕屋医師会、日本医師会、福岡県病院協会病院講演会、富士通フォーラム、国立病院機構病院、医療事故調査機構、日本医師会勤務医担当理事協議会、全国地方医師会等(各地方ブロック)	「とびうめネット」、さらには「結ネットいきいき」により地域との情報共有を図っている。病院と地域とが双方向に情報を伝達共有することでシームレスな医療介護の連携を図り、患者目線の電子化医療モデルを構築中である。	1)地域連携診療計画(大腿骨頸部骨折・脳卒中)による連携 大腿骨頸部骨折と脳卒中に対し診療計画(クリティカルパス)を用いて連携病院と退院後の診療連携を図る。・大腿骨頸部骨折連携病院 香椎丘リハビリテーション病院、北九州古賀病院、宗像水光会病院、荒巻整形外科、亀山整形外科、原三信病院香椎原病院、かい整形外科、東郷外科病院、・脳卒中連携病院 香椎丘リハビリテーション病院、北九州古賀病院、宗像水光会病院、原土井病院、篠栗病院、宮田病院、福岡みらい病院、竹村医院、池田内科クリニック、やの循環器内科クリニック、植田脳神経外科医院、 2)がん治療連携計画(5大がん等)による連携 がん診療連携拠点病院で策定した診療計画(クリティカルパス)、私のカルテを用いて連携病院と退院後の診療連携を図る。連携病院は福岡県全域にわたり多数該当あり 3)肺結核地域連携パスによる連携 発生地域を管轄する各保健所と連携した入退院の円滑化を図るため診療計画(パス)を用いて行政(保健所)と退院後の診療経過を観察する。	当院で行われる研修会・講習会等においてクリティカルパスの紹介を行うとともに、連携参加を呼びかけている。また、新たに地域連携クリティカルパスが必要な患者で、そのかかりつけ医が使用していない場合は、概要説明をおこないパスの参加を促している。	265名 ・福岡看護高等専修学校、福岡女学院看護大学、福岡水巻看護助産学校、九州医療センター付属福岡看護助産学校
13	宗像(1病院)	宗像医師会病院(H12.3.31)	一般164	(公財)日本医療機能評価機構による機能制度版評価項目3rdG:Ver1.0取得(平成25年8月18日)	本病院のホームページにおいて、院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知するほか、看護学校実習生の受け入れ状況を掲載している。また、会員向けに「ご利用ハンドブック」を毎年発行している。	診療所と必要情報を共有することで、地域における継続性の高い医療の提供に努めている。	がん診療連携拠点病院等を中心に策定された地域連携診療計画に基づいたがん治療連携に参加し、宗像医師会との連携のもとに、腫瘍内科・緩和ケア病棟を設置し、がんに関して地域で完了する体制を構築している。	宗像医師会を通じて普及させている。	176名 ・宗像看護専門学校、日本赤十字九州国際看護大学、純真学園大学
14	筑紫(3病院)	福岡大学筑紫病院(H19.4.19)	一般308 感染症2	—	【方法】本病院のホームページ、広報誌(ちくしニュース)、病院パンフレット、年報等 【内容】共同利用に関すること、看護実習受入れ、地域連携クリティカルパスに関すること	とびうめネットへ参加	○筑紫医師会及び関係医療機関とともに「脳血管障害地域連携パス」を策定し、年3回の連携医療機関同士の会合を開催し、勉強会や症例検討を行い連携を図っている。 ○3施設を基幹病院とし「大腿骨頸部骨折地域連携パス合同運用会議(ちくし骨骨ネット)」を年3回連携医療機関と共同で開催している。	○本病院の広報誌「ちくしニュース」へ地域連携パス会議、実施状況を掲載。 ○関係医療機関と連携を図り周知している。	297名 ・福岡大学医学部看護学科、国際医療福祉大学、福岡女学院看護大学、国際医療福祉学院、筑紫看護高等専修学校、あさくら看護学校、福岡看護専門学校
15		医療法人徳洲会福岡徳洲会病院(H20.4.1)	一般600 感染症2	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目3rdG:ver1.0取得(平成25年11月)	ホームページや登録医療機関をはじめ近隣医療機関約730施設に毎月病院情報(研修・医療講演)を送付。 看護実習生、地域連携パスの導入	一部の診療科(循環器内科)において情報共有を行い、継続性の高い医療提供に努めている。	福岡市医師会、筑紫医師会及び地域の関係機関とともに「脳卒中地域連携パス・大腿骨頸部骨折」を策定し、地域完結型医療を実践している。	関係医療機関と年3回会合を行い、検証を行っている。	802名 ・純心学園大学、高尾看護専門学校、九州看護福祉大学、福岡看護専門学校、アカデミー看護専門学校、精華女子高校、自衛隊福岡病院准看護学院、純真高等学校、九州医療センター助産看護専門学校
16		福岡県済生会二日市病院(H24.7.27)	一般260	(公財)日本医療機能評価機構認定基準3rdG:Ver1.1更新受理(平成28年6月23日)	広報誌の活用	ホームページ内に医療機関向け情報の発信	大腿骨頸部骨折地域連携パス、脳卒中地域連携パス	3か月に1度、協力病院との勉強会を行っている。	1,071名 ・高尾看護専門学校、筑紫看護高等学校
17	朝倉(1病院)	朝倉医師会病院(H12.3.31)	一般300	H22.8.6(公財)日本医療機能評価機構認定(区分3、Ver6.0)、H27.10.2主たる機能:一般病院 2、副機能:緩和ケア病院 機能種別評価項目3rdG:Ver.1.1 H24.7.19日本生産本部JHQCクオリティクラスA認証、H27.7.22更新	ホームページ上に、院外に向けて各種教室(勉強会)、研修会、特定健診、人間ドックの案内や、「地域講演会」などへの講師派遣案内を掲載している。	連携会員は、電子カルテシステムを利用した地域医療連携システムにより、カルテ閲覧が可能となり、紹介した患者の治療状況が把握できる。	—	がんの地域医療連携クリティカルパス(私のカルテ)運用の準備	161名 ・あさくら看護学校、昭和学園、福岡看護専門学校
18	久留米(4病院)	聖マリア病院(H20.4.1)	一般931 療養100 精神60 感染症6	日本医療機能評価機構(Ver6.0:区分4)2013年6月7日 ISO9001(2012年3月5日) ISO15189(2015年12月17日)	①聖マリア病院地域医療連携広報誌「耳納の朝」の発行を(毎月)・郵送。②聖マリア病院ホームページでわかりやすい案内等掲示し随時更新。③高度医療機器、手術室等について利用案内をホームページに掲載し、連携登録医の先生をはじめ地域の先生方を訪問し共同利用の促進をはかる。④院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知。	ID-Link カルテ情報を他の病院やクリニック(かかりつけ医など)へネットワーク経由で聖マリア病院の医療情報を開示している。ネットワークの参加を地域の医療機関に呼びかけ、久留米地区の主要医療機関の賛同を得る事ができ、平成24年8月に「くまの診療情報ネットワーク協議会」が発足し、地域レベルでの広域電子カルテ(生涯カルテ)の実現を図っている。このネットワークを利用した情報連携によって、より正確で迅速な診断と安全な治療が期待される。	①がん地域連携パス・・・福岡県では県の拠点病院として、九州がんセンター・九州大学病院の2病院が指定されている。地域拠点病院は13施設が指定されているが、当地域では久留米大学病院、聖マリア病院で、高い水準のがん医療の均てん化など、全国どこでも適切ながん医療が受けられるように「がん相談支援センター」の設置など体制整備を図っている。 ②久留米大腿骨近位部骨折地域医療連携パス・・・久留米医師会とも連携を取りながら、筑後地域の回復期病院・維持期施設と連携強化し、大腿骨近位部骨折連携パスの事務局として地域完結型の医療を実践している。また、定例会では、一同に会し顔の見える連携につながり、良い効果を上げている。 ③筑後地域脳卒中連携の会 地域医療連携パス・・・久留米医師会とも連携を取りながら、筑後地域の回復期病院・維持期施設と連携強化し、脳卒中連携パスの事務局として地域完結型の医療を実践している。また、定例会では、一同に会し顔の見える連携につながり、良い効果を上げている。	がん地域連携パスについては、聖マリア病院ホームページで情報公開し、関係医療機関へ周知している。	1,378名 ・聖マリア学院大学、久留米医師会看護専門学校、緑生館、長崎玉成高校、鳥栖三養基医師会看護高等専修学校、博多高校、八女筑後看護専門学校、折尾愛真高等学校、精華女子高等学校、武雄リハビリテーション学校他
19		社会医療法人天神会新古賀病院(H22.4.1)	一般202	日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目3rdGver1.0(平成25年12月)	ホームページ及び広報誌にて、診療内容及び診療実績に関する情報発信を行っている。専従の前方連携担当者を配置して更なる情報発信を行う。	くまの診療情報ネットワーク協議会(アザレアネット)に参加し、ID-LINKを用いて診療情報の共有を病院・診療所と行っている。	筑後地区脳卒中連携の会に計画管理病院として参加。	筑後地区脳卒中連携の会では、連携パス運用に関する部会を行っており、看護師、リハビリ、栄養士、SWがそれぞれの部会に参加している。	1,320名 ・久留米医師会看護学校、高尾看護専門学校
20	嶋田病院(H23.4.28)	一般150	日本医療機能評価機構新規認定2005年 Ver.4、第1回更新認定2010年 Ver6、第2回更新認定2015年 3rdG Ver.1.0(一般病院2)、新規付加機能(緩和ケア)2015年	広報誌、ホームページ、フェイスブック、メールマガジン、院内・院外健康教室、連携だより	IDリンク	循環型糖尿病地域連携パス、大腿骨頸部骨折・脳卒中回復期パス	地域連携講演会、薬業連携会議、医科・歯科連携会議、コーディネーターの運用等 地域連携講演会、小郡三井地区医療介護連携会議	70名 ・純心学園大学、アカデミー看護専門学校、医療福祉専門学校緑生館、精華女子高等学校	
21	田主丸中央病院(H24.7.27)	一般179 療養71 精神93	(公財)日本医療機能評価機構 初回認定日:1999.1.25 機能種別版評価項目3rdGver1.0取得(2014.8.1)	1.ホームページ:当院の概要、研修会等の案内 2.広報誌:市民向け4回/年、登録医向け3回/年	とびうめネット参加準備中	久留米医師会、浮羽医師会の関係医療機関と共に以下のパスに参加 ・大腿骨近位部骨折地域連携パス、脳卒中連携パス、がんパス	院内:職員に対して各会議での周知と活用推進 院外:各パスの連携会議、定例会議に出席、転院時に関係医療機関への周知	61名 ・精華女子高等学校、麻生看護大学	

取 組 み 事 項				①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信	③地域連携を促進するための取り組み	④その他		
No.	医療圏	地域医療支援病院名(承認年月日)	病床数(床)	評価を受けた機関名等	情報発信の方法・内容等の概要	ICT(情報通信技術)を用いた病診連携等	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
22	八女・筑後(1病院)	公立八女総合病院(H26.12.5)	一般300	—	院外の関係者に向けての研修の開催に関する情報等は、その内容により、八女筑後医師会及び柳川山門医師会東部支部、関係医療機関や消防署宛にFAXによるお知らせを行っている。また、必要により、郵送による配布、医療機関を訪問しての配付も行っている。	八女筑後医療情報ネットワーク(IDリンク)を活用し、連携医療のために必要な診療情報を共有することで、地域における継続性の高い医療の提供に努めている。	八女筑後医師会及び関係医療機関とともに「がん地域連携クリティカルパス」を策定し、がん診療連携拠点病院である本病院として、がん診療連携拠点病院以外の医療機関とも連携し、がん医療の均てん化を図っている。	八女筑後医師会に医療機関より問い合わせがあった場合、当該クリティカルパスの概要を説明をさせていただいている。連携医療機関が新規で「がん地域連携クリティカルパス」の適用になる場合は、直接連携医療機関に出向き、運用の説明を行っている。	167名 ・八女筑後看護専門学校、九州看護福祉大学、杉森高校、城北高校、九州アカデミー学園、緑生館
23	有明(1病院)	大牟田市立病院(H24.7.27)	一般350	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目一般病院2(3rdG:ver1.0)取得(平成26年3月7日)	本病院のホームページにおいて、開放病床や各種研修会の案内を掲載しているほか、文書による研修会の案内も随時行っている。また、院外向け広報誌の発行や院内の電子掲示板による情報の発信、逆紹介推進を目的とした医療機関のパンフレットの設置も行い、情報発信に努めている。	地域医療連携システムを導入し、登録医療機関との情報共有に努めている。	「がん地域連携クリティカルパス」大腸がん、胃がん、肺がん、乳がん、肝臓がん、前立腺がんのがん種別毎にがん診療連携拠点病院と各地域医師会が福岡県統一バスを策定し、福岡県医師会を通して各都市医師会へ直通。当院は、バスの発行や運用管理を行う基幹病院として地域医療機関と連携し、がん医療の均てん化に努めている。	がん診療連携クリティカルパスは、本病院のホームページにおいて、概要を説明するとともに関係医療機関に周知している。連携医療機関として届出がない医療機関への逆紹介時には、訪問にてバスの説明を行い、連携依頼や届出の支援を行っている。大牟田大腸骨近位部骨折地域連携バスは、平成24年1月より運用を開始し、当院を管理病院として4医療機関と連携している。代表者会議2回/年、実行委員会を1回/年開催し、実績報告、運用やバスシートについて見直しなどを行っている。今後も連携医療機関数を増やし、地域完結型医療の実現を目指して継続した取り組みを行う。脳卒中地域連携バスは、平成22年4月より運用を開始し、当院を管理病院として8医療機関と連携している。代表者会議を1回/年、実行委員会を1回/年、リレー症例検討会を1回/年開催した。リレー症例検討会では、2症例の急性期・回復期を通して経過・連携の実態を共有・検討することにより、医療の質の向上にも努めている。現在は、回復期だけでなく、維持期を担う医療機関との連携(バス運用)も検討し、在宅復帰への取り組みを推進している。バスの実績報告やリレー症例検討会を連携医療機関以外にも広く開催し、普及活動に努めていきたい。	298名 ・大牟田医師会看護専門学校、九州看護福祉大学、熊本看護専門学校、杉森高等学校、国際医療福祉大学
24	飯塚(1病院)	飯塚病院(H17.4.1)	一般978 精神138	日本能率協会 審査登録センター(ISO9001、14001)平成28年1月19～22日	ホームページや広報誌を活用して、院外の関係者に向けて当院の診療実績や研修開催情報を周知している。また、研修開催案内は各医療機関に対し、開催案内等を郵送して情報発信している。	CT、MRI等の画像検査については、インターネットで予約できるようにしている。	福岡県医師会及び関係医療機関とともに「がん地域連携クリティカルパス」を策定し、がん拠点病院である当院及び九州がんセンターを基幹病院として、がん拠点病院以外の医療機関とも連携し、がん医療の均てん化を図っている。	年3回、地域連携バス研究会を実施し、関係施設と連携を図っている。また、脳卒中の連携バスについては医療機関とメール等を使って情報共有を図っている。	1,260名 ・福岡県立大学、近大附属福岡高等学校、麻生看護大学、飯塚医師会看護高等専修学校、博多高等学校、日本赤十字九州国際看護大学
25	田川(1病院)	社会保険田川病院(H26.12.5)	一般348	(公財)日本医療機能評価機構による審査体制区分3 Ver.6.0(平成23年5月19日)	2ヶ月に1回発行している広報紙「あおぞら」とホームページにて、医療関係者ならびに患者に対して医療情報、健康情報、研修情報などを情報発信している。地域医療機関には郵送し、患者には病院ロビーにて配布している。一斉FAX機能を使い、診療案内(診察医、診察日の変更等あればその都度)や公開講座開催案内等を地域医療機関に送信している。当院職員の研修担当を病院外(福岡県立大学、医療機関、介護施設、企業等)に派遣して様々な情報を発信している。	当院が保有する高額医療機器の共同利用促進のため、ICTを用いた画像ネットワークを導入している。CT、MRI、骨密度測定、超音波検査、内視鏡検査(胃、大腸)の検査予約、放射線誘影医師のレポート並びに画像送信を行っている。救急対応においてもできる限り対応している。また、田川医師会等と地域医療ネットワーク構築に向けて現在協議中である。	①大腿骨頸部骨折クリティカルパス、②5大がん連携クリティカルパス、③脳卒中クリティカルパス	当院における地域連携クリティカルパスは順調に運用できている。登録医療機関の実務者会議も定期的に開催し、情報の共有を図っている(現在24施設)。田川医療圏では地域連携クリティカルパスを策定しているのは当院のみ。登録医療機関においては、田川医療圏外の医療機関も参加している。	147名 ・福岡県立大学看護学部、筑豊看護専門学校
26		小倉記念病院(H17.4.1)	一般658	—	当院ホームページ又は、直接訪問などで各診療科の取り扱う主な疾患、特色、専門分野等の情報を院外に向けて発信している。また、研修の開催に関する情報を登録医療機関等に郵送やFAXなどの方法で周知を行っている。	—	北九州市医師会や関係大学病院、地域の医療機関で運用している北九州脳卒中・大腿骨近位部骨折地域連携バスと、北九州市医師会や地域の医療機関で運用している北九州循環器疾患地域連携バスを策定し、地域における包括的な疾患管理を行っている。	医師会を通じての運用説明会や協議会参加。シートの見直し提案。	315名 ・北九州小倉看護専門学校、日本赤十字九州国際看護大学、西南女学院大学、国際医療福祉大学、山口大学 ・福岡県立大学
27		製鉄記念八幡病院(H17.4.1)	一般453	(公財)日本医療機能評価機構による統合版評価項目:Ver6.0(平成25年3月)	市民の方に病氣や医療についての知識を深め、健康増進・維持に役立てていただくことを目的に、2002年より市民向けの健康講座を開始し、当講座を通じて地域の方々との顔の見える信頼関係を築くことを目標に、約60回にわたり継続している。2015年からは、より地域の方々に密着した「出前講座」という形式で、各々の市民センターにおいて健康長寿のための講座を病院長を中心に無料で提供し、地域社会貢献につながる活動を展開している。病院のホームページにて院外医療従事者向けの研修会や地域住民に対する健康講座の開催に関する情報のほか、救急医療についての概要、登録医療機関情報等を掲載している。院外広報誌「こんにちにはせいてつ病院です」を、当院が目指す「救急医療の充実と地域のニーズに応える質の高い地域医療の実践」を基本に、医療情報サービスとして位置付け、年4回(4,500部/回)発行しています。	地域医療連携システム「SMILE」を開発し、登録医療機関と情報共有を行うことで、効率的で質の高い医療の提供に努めている。	北九州地区の急性期病院及び回復期・慢性期病院と連携し、特定の疾患(脳卒中、大腿骨近位骨折)について地域連携バス(北九州標準モデル)を運用している。	疾患毎の協議会に加わり、研修や意見交換会に参加することで、課題の解決や医療機関相互の連携強化に努めている。	242名 ・八幡医師会看護専門学校
28		戸畑共立病院(H17.4.1)	一般218	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別評価項目:Ver6(平成25年3月1日)	広報誌(年4回発行)やインターネットを使用して、新任の医師紹介や最新の医療機器を紹介している。	平成26年より地域の医療機関とネットワークを使って情報交換を行い、地域における継続性の高い医療を提供している。地域の医療機関を紹介できるよう、リーフレットを作成し、患者様が手に取れるように地域連携室前に設置している。また、北九州市の地図に連携病院を入れてわかりやすく患者様に提供をしている。	北九州地域連携バス(脳卒中、頸部骨折)を使用し、計画病院として維持期、回復期病院と連携をとり、患者情報を共有し、医療の質の向上に努めている。また、年2回連携病院を訪問し情報共有を行っている。がんの地域連携バス(胃・大腸・肺・乳がん・肝がん・前立腺がん)を使用し、患者様が地域で安心して医療を受けることができるように地域の連携病院と、がん医療の均てん化に努めている。	脳卒中・頸部骨折のバス運用については、年3回の北九州地域連携協議会に出席し、情報共有を行い、院内に協議会の内容を発信している。がん地域連携バスの新規の連携病院には訪問し、運用の説明を行い、患者様が地域で安心して療養できるよう情報交換を行っている。地域連携バスの使用率、バス使用の在院日数を院内での各種会議で報告を行い、院内での普及に努めている。	147名 ・北九州戸畑看護専門学校、折尾愛真高等学校(看護科、専攻科)、美萩女子大学高等学校(看護科、専攻科)
29		独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院(H19.4.19)	一般575	平成26年8月 日本医療機能評価機構受審済	紹介医療機関、かかりつけ医へ患者の「受診」「入院」「退院」「転科」「死亡」のお知らせをタイムリーに実施している。ホームページで、地域の医療従事者や在宅医療・在宅養介護関係者へ研修開催に関する情報を周知している。研修会ポスターをチラシとして登録医や地域住民、調剤薬局、区役所へ配付し周知に努めている。「連携のかけはし」という情報誌を1回/月発行している。診療のトピックスやチーム活動内容、休診情報、研修会のお知らせ等を掲載している。「診療情報誌」1回/年、「メディカルナウ」という広報誌を4回/年発行している。各診療実績や部門紹介、病院行事や各部門から健康に役立つ情報、健康教室など研修会の紹介を掲載している。必要時、連携医療機関や在宅医療、在宅養介護サービス関係者へ情報発信の文書を発送している。	Mクラブ運用⇒CT、MRI検査のオンライン予約システムで画像予約と誘影の送信 きしのうらネット運用⇒患者の同意のもと、かかりつけ医がインターネット回線を利用して、当院の電子カルテの一部が閲覧できる。 カナミックシステムへの協力⇒在宅医療、在宅養介護サービスでの情報交換のツール(モデル事業:北九州ひまわりネットワーク推進事業)への参加 とびうめネットの運用(福岡医師会診療情報ネットワーク) ⇒患者の希望を確認し、かかりつけ医からあらかじめ患者情報を急性期病院へ発送し、情報交換を行う。	①大腿骨近位部骨折、②脳卒中、③胃がん、④大腸がん、⑤肺がん、⑥乳がん、⑦肝がん、⑧前立腺がん	地域関係者での定例会議に参加している。がんの地域連携クリティカルパスに関しては、新規登録の医療機関へは説明用の用紙を郵送し、必要時、訪問して説明を行っている。院内外の広報誌や研修会で説明を実施している。	5,555名 ・西南女学院大学、福岡県立大学、八幡医師会看護専門学校、原看護専門学校、九州看護福祉大学、日本赤十字九州国際看護大学
30	北九州(10病院)	独立行政法人国立病院機構小倉医療センター(H20.4.1)	一般350 精神50	—	毎月、メール便にて600程度の医療機関等へ、院外関係者向けの研修の案内や院内広報誌等のさまざまな情報を発送している。	—	—	—	8,654名 西南女学院大学、専門学校北九州看護大学校、遠賀中央看護助産学校、福岡女学院看護大学、北九州戸畑看護専門学校、北九州小倉看護専門学校、福岡看護専門学校

取 組 み 事 項				①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信	③地域連携を促進するための取り組み	④その他		
No.	医療圏	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	評価を受けた機関名等	情報発信の方法・内容等の概要	I C T (情報通信技術)を用いた病診連携等	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルバスの種類・内容	地域連携クリティカルバスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
31		独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院 (H21. 4. 1)	一般450	日本医療機能評価機構機能種別評価評価項目3rdG: Ver.1.0[一般病院2](平成25年11月1日認定)	診療連携広報誌の発行(年4回、送付先約690医療機関)、患者向け広報誌の発行(年4回+α(必要に応じ臨時発行)、1,500部/回)、ホームページの随時更新、連携医療機関を対象とした医療連携懇談会の実施(年1回)、京都医師会との合同症例検討会の実施(年1回)、市民公開講座の開催、救急隊との座談会(年4回)	現在はまだ導入されていないが、近年導入する方向でシステム導入計画を策定中。	大腿骨近位部骨折地域連携バス、脳卒中地域連携バス	北九州市大腿骨近位部骨折地域連携バス協議会(病院長が協議会の長に就任)への参画、北九州市脳卒中地域連携バス協議会への参画、医局会等での院内医師に向けた利用促進を依頼	129名 ・小倉南看護専門学校、製鉄記念八幡看護専門学校、日本赤十字九州国際看護大学、京都医師会看護高等専修学校、西南学院大学
32		健和会大手町病院 (H21. 4. 1)	一般527	(公財)日本医療機能評価機構3rdG一般病院2014年認定 付加機能救急医療機能Ver.2.0 2015年認定	広報誌を隔月発行し地域へ発信。またホームページにより情報公開し、全日本民主医療機関連合会QI報告をホームページ上から閲覧できるようにしている。 医療活動をまとめた医報を年に1回発行し、登録医・地域の医療機関に配布している。	福岡県医師会診療情報ネットワーク参加	胃瘻ボタン交換連携バス	地域の施設とのセミナー等での情報交換を施行。また、自院で胃瘻増設患者が退院時に次施設へのバス利用について説明を行う。	687名 健和看護学院、北九州市戸畑看護専門学校、北九州市小倉看護専門学校、製鉄記念八幡専門学校
33		北九州市立医療センター (H23. 4. 1)	一般620 感染症16	(公財)日本医療機能評価機構による日本医療機能評価機構(ver.6.0)の認定(平成24年3月2日)	ホームページ・Eメール・FAX・病院広報誌「輪」(年4回発行)により、登録医や地域の医療機関に向けて、医療連携や地域の医療従事者を対象にした研修等に関する情報を発信している。毎年、「診療案内」を作成し、7月開催の「医療連携の会」と近隣連携医療機関へ訪問時に配布している。また、患者・市民を対象に広報誌「こんにちは!!医療センターです」(随時発行)にて情報提供している。 看護・助産学生、薬剤師・臨床検査技師の学生の受け入れを積極的におこなっている。	地域医療連携ネットワーク「連携ネット北九州」を導入し、北九州市立医療センターで受診した際の検査結果等を地域の医療機関とインターネットで共有しており、地域医療の質の向上を図っている。また、閲覧のみでの利用推進をしている。今後は、退院時要約、看護要約、診療情報提供書の公開を予定している。 【高額医療機器の予約】CT検査、MRI検査、RI検査、X線撮影検査、骨密度検査、マンモグラフィ、腹部エコー、体表エコー、頸部血管エコー 【閲覧可能な内容】上記検査と内視鏡の画像・レポート、血液・生化学検査、処方せん(服薬・注射)、病理診断、細胞診断	福岡県がん地域連携バス 胃がん(13施設14件)、大腸がん(6施設6件)、乳がん(2施設2件)、 肺がん(1施設1件) その他のクリティカルバス 脳卒中連携バス(2施設14件)、乳がんホルモン(3施設 3件)	退院時にクリティカルバスの利用を積極的に薦めているほか、計画的に地域の医療機関を訪問し協力を求めている。新規に運用するバスについては、関係診療科を対象に説明会を開催している。	299件 小倉南看護専門学校、西南学院大学、北九州小倉看護専門学校、北九州市立看護専門学校、門司区医師会看護高等専修学校、久留米大学認定看護師教育課程緩和ケア、国際医療福祉大学
34		独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院門司メディカルセンター (H24. 7. 27)	一般250	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目3Ver1.0(平成26年3月7日)	ホームページに研修案内等を掲載している。また、院外の医療機関に向けて研修会の案内や広報誌等を地域連携室より送付し情報提供を行っている。	とびうめネット	脳卒中に対する地域連携バスを検討中	—	2,024名 門司区医師会看護高等専修学校 北九州市戸畑看護専門学校
35		遠賀中間医師会おんが病院 (H24. 7. 27)	一般100	—	院外の関係者に向けた研修、消化器カンファレンスや糖尿病カンファレンス、画像カンファレンスなどの開催情報や地域患者さん向けの糖尿病教室などの研修開催情報 開放型病院として登録医などとの連携情報(患者さん紹介や転院、医療情報提供など、病院じょうほうの提供) 他病院・クリニック様等向けへの検査依頼・結果確認方法などの情報 在宅支援として24時間対応可能な訪問診療の提供や在宅医療内容、訪問リハビリ、訪問薬剤、訪問栄養内容 病児・病後児の受け入れを積極的に行っている 看護学校実習生の受け入れを積極的に行っている 手術件数、患者数などの統計データやDPCによる診療情報の公開 広報誌「地域と生きる」にて情報提供を行っている	福岡県医師会診療情報ネットワークのとびうめネットを導入予定	大腿骨のバスの導入を医師会と連携し導入する予定	医師会及び地域クリニックへ訪問等の予定	93名 遠賀中間医師会遠賀中央看護助産学校
36	京築 (1病院)	新行橋病院 (H22. 4. 1)	一般246	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目 2ndG:Ver.5.0取得(平成21年9月27日)、 3rdG:Ver.1.0取得(平成26年8月)	本病院のホームページにおいて、院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知している。広報誌(年4回)、連携室便り(年2回)を各病院等へ配布するなどし、診療所と情報を共有するよう努めている。	京築医師会が導入しているメディックNETに参加。	脳卒中地域連携バス	地域の病院やクリニックへ訪問し、連携への協力を促している。	167名 ・京都医師会看護高等専修学校、 豊前築上医師会看護高等専修学校、 美萩野女子高等学校、福岡水巻看護助産学校、下関看護リハビリテーション学校、福岡看護専門学校